平成二十六年度（第十八回）肥後医育振興会外国人留学生奨学助成を行う

医学・医療国際交流支援事業の一つとして、平成二十六年度（第十八回）肥後医育振興会外国人留学生奨学金助成候補者の選考も、医学研究助成金助成候補者の選考に併せて行われました。

本年度は熊本大学大学院医学教育部長から推薦を受けた四名の応募があり、いずれの応募者も奨学助成対象者に相応しいとして四名全員が助成候補者として選考されました。

その後、理事長に推薦し、理事会において承認された後、それぞれに十五万円が贈呈されました。

趙（チョウ）　加斌（カヒン）
熊本大学大学院医学教育部
博士課程一年（中国）
（分子遺伝学分野）

王（オウ）　馳（チ）
熊本大学大学院医学教育部
修士課程二年（中国）
（知覚生理学分野）

黄（ホン）　冠男（グワアナン）
熊本大学大学院医学教育部
博士課程二年（中国）
（神経内科学分野）

朱（シュ）　順順（ジュンジュン）
熊本大学大学院医学教育部
研究生（中国）
（分子遺伝学分野）

速報　平成二十六年度医学研究助成金・外国人留学生奨学金の授与式を開催

平成二十六年度第十九回肥後医育振興会医学研究助成金及び第十八回肥後医育振興会外国人留学生奨学金の合同授与式が、平成二十六年十月二十日に医学教育図書棟四階ゼミ室において行われ、西勝英理事長から医学研究助成金四名、外国人留学生奨学金四名に対して、各十五万円が助成者ひとり一人に手渡されました。また、それぞれの助成者の代表者から謝辞及び今後の決意が述べられました。

学生の自主活動への支援

「蕃滋祭」の開催にあたって

第四回蕃滋祭実行委員長
熊本大学薬学部薬学科三年
今村　一久

この度は熊本大学薬学部の蕃滋祭運営のため肥後医育振興会助成金を賜り、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。肥後医育振興会のお力添えにより、私たちは、平成二十六年十一月一日（土）、二日（日）に熊本大学大江キャンパスにおきまして薬学部蕃滋祭を開催致しました。薬学部学生一同を代表してここにご報告いたしますとともに、心から感謝申し上げます。

蕃滋祭は、薬学部の近隣に住んでおられる地域の皆様をはじめ、卒業生の方々、さらにはこれから薬学を目指そうとする方々に対して、現在の熊本大学薬学部の校風を体感していただき、薬学に少しでも興味を持っていただくために、毎年開催しております。

充実した薬学展を開催できるようにと、薬学展改め「蕃滋祭」という名称に変えさせていただいて、本年で四年目となりました。「蕃滋」とは、熊本大学薬学部の基となる薬園「蕃滋園」を由来としています。「蕃滋園」という名は、福利厚生施設「蕃滋館」として、今もなお熊薬で受け継がれております。施設内には学生食堂、購買所などが設けられ、学生及び教職員が利用する憩いの場となっております。

本年も様々なイベントを企画し、模擬店を出店しました。公開実験として、毎年人気な火傷によく効く紫雲膏の作成を行いました。模擬授業はとてもユニークな先生が行ってくださり、参加者の方々にも有意義な時間が提供できたかと思います。さらに薬剤師体験では、模擬薬局を開放し、一般の方々に薬局ではどのようなことをしているのか体験してもらいました。薬学部全体でいろいろな企画を体験できるいい機会になったと思います。また、模擬店の規模も去年よりもさらに拡大し、地域交流や学生間の絆をより深く強いものにできました。体育館にはステージを設け、軽音楽によるライブをはじめ、ミスコンなどさまざまなステージ企画も実施しました。本年は、熊本発のアイドルグループを招待し、ライブを開催しました。

今回の蕃滋祭を通して多くの方々に熊本大学薬学部と薬学についてより深いご理解とご支援を受けたと感じております。また、運営にあたって学生が切磋琢磨し、向上心と愛校心を培うことができました。このような蕃滋祭を開催できるのも、偏に薬学部を支援してくださる皆様のおかげだという事を常に心に留め、これからもいっそう薬学部と医療全体の活性化のために学部生一同一丸となって邁進していきます。また、地域と医療の架け橋となるべく、これからも蕃滋祭を通して地域の皆様に少しでも薬学部を知っていただけるように頑張ります。

最後に、肥後医育振興会と熊本の医療の益々の発展を祈念してご報告とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。